

地域資源生かし健康増進 八学大生が知事に提案



チャレンジゼミナールで知事(左)らに提言する学生(右)

八戸

県はこのほど、八戸市の八戸学院大で、県が抱える課題について学生と三村申吾県知事が意見交換する「未来デザイン県民会議 知事とのチャレンジゼミナール」を開いた。「人口減少を克服するための健康づくり」をテーマに学生が地域資源を生かした健康増進策などを提案した。

発表に臨んだのは健康医療学部とビジネス学部の6

グループ・個人。「海藻食の再評価と普及」をテーマにしたグループは、健康・美容食として海藻食の評価が高まっていることを踏まえ、地元で採れる「アカバギンナンソウ(アカハタ)」などに着目。この海藻は郷土食「アカハタモチ」に加工程度アップが課題だとして普及のための地域プロジェクトを立ち上げてはどうかと提案した。

「自然を活用した健康増進活動」について発表した学生は、種差海岸でウォーキングした中高年を対象に実施した調査でストレス軽減効果が確認されたことを報告し、ウォーキングの輪を広げるためのマップづくりなどを提案した。

子どもたちがスポーツに親しむ環境づくりの一環として地域で「放課後タグラグビー教室」を開いてきたラグビー部のグループは、大学スポーツ部の人材を活用して県内大学と県が連携してスポーツや健康づくりの事業をすすめることを提案。

日野口颯大さん(21)はビジネス学部4年、阿部健悟さん(20)は同2年。知事に直接提案できる場で自分たちの考えを伝えられて良かった。「自分たちの活動で健康づくりを一層進められれば」などと話していた。

(岩村史生)